

言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】（文部科学省HP）より

第3章 言語活動を充実させる指導と事例

(2) 教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項

言語活動については、国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実する必要がある。その際、各教科等の特質を踏まえつつ国語科との関連を図りながら、言語活動の考え方や諸点に留意して取り組むことが必要である。

＜国語＞（傍線引用者）

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導することとし、課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

- 中央教育審議会答申（平成20年1月）の国語科改訂の趣旨に示す「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」を一層重視して国語科の授業改善を図ることが求められる。
- そのためには、学習指導要領の内容の(2)に示す言語活動例を基に、具体的な言語活動を通して指導事項を指導することが大切である。その際、「ここで音読する」「ここで話し合う」といったばらばらの活動ではなく、児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。
- このような単元構想を進めるためには、年間指導計画と児童の実態とを踏まえて、(1) 当該単元で重点的に指導すべき指導事項を確定する、(2) その指導事項を指導するのにふさわしい言語活動を選定する、(3) 言語活動を位置付けることで育成すべき国語の能力の一層の明確化・具体化を図る、(4) それら育成すべき能力を身に付けるための指導過程を構築する、といった手順で考えていくことが有効である。
- 特に「C読むこと」においては、指導事項に示す読むことの内容を児童に確実に身に付けるため、無目的に場面ごと、段落ごとに平板に読み取らせる指導を改善することが求められる。すなわち、児童自身にとっての読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめて交流したりするなど、児童に必要な読む能力を調和的に育成することが重要である。またそのためにも、言語活動例を具体化し、授業における読書活動を一層充実していくことが重要である。
- そのための基盤として、シリーズで読む、好きな作品を見つけて読む、目的に応じて本や文章を比べて読むといったことが可能となるよう、学校図書館の充実や地域の図書館との連携が求められる。
- なお、内容の(2)に示す言語活動例は例示であるため、これらのすべてを行わなければならないものではなく、それ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。